

改題

土楽たより

どうらく

Kogure 農場 8月号 (NO16)

2011年8月10日 (水) 発行

【農暦】思うようには行かないものである。

○今日(3日)病院へ痛みを耐えかねて行った。診断結果は骨には異常なしでギックリ腰?とのことである。遅れ遅れの農作業で荒れた畑をまともにしたいと、先週、先々週と継続して頑張ってきた矢先のことで痛みで気持ちの余裕もないが、残念でならない。今週頑張れば畑は少しはまともになると楽しみにしていたところであったので、重ね重ね残念である。痛いのは致命的で何もできない。ただ時間が過ぎて治癒するのを待つだけである。身体の変調も大変だが気候の変調も怖いものがある。ここ数年は変調と言えない程激しい気候がづき常態化している。先週は新潟と福島で豪雨である。信濃川の支流で堤防が決壊した。ロシアでは竜巻で死者が出た。ほとんど雨が降らなかった私のところでは恵みの雨に近い。豪雨でなかったがしっかり降った。雨の合間の農作業は泥んこを避ければ快適である。先々週と先週と続けて頑張れた。そうして今週の農作業を楽しみにしていた。疲れやすいなどやチョットした腰の違和感を感じてはいたが、痛みがこれ程になるとは思わなかった。無理して身体を壊してはと、特に熱中症にはニュースでいろいろ言われていたので気を使っていた。それだけに、つくづく思うようには行かないものであると思った。ギックリ腰には症状についての国際基準?があるとかで1週から永い場合は2週間痛みが続くとのこと。痛み止めの薬の処方を受け痛みは和らいだ。だが何も出来ないで身体の置き場所がない。この間にも草の繁茂力が進行していると思うと落ち着いた気分にはなれない。

○大幅に遅れて定植したトマト、キュウリ、茄子、ピーマンなどが採れ始まった。トウモロコシも最近では珍しく採れた。時期をずらして播種したものは発育が今一つで収穫は難しそうである。やっと始まった収穫期に草の繁茂力の餌食にはしたくない。こんな時にギックリ腰になったのである。私の畑の成績が悪いことを知ってかどうかは判らないが、最近は特に、いろいろ野菜を貰う機会が多



<柏まつり> “ねぶたと跳ね人”。その周りを大勢の人が取り囲む。一般参加者も跳ね人の輪に入るなど囃子や太鼓の元気なリズムを一緒に楽しんだ。今年孫娘が吹奏楽でまつりに参加したので出かけた。お陰でまつりを楽しめた。(23日)

い。柏のご近所さんからはプランターで育てたと立派なキュウリとトマトを頂いた。娘の友人の父親が家庭菜園で育てたとトマトや茄子など袋一杯貰った。笠間では大量のトウモロコシ、ジャガイモ、茄子、キュウリを品種ごとに分けて数回頂いた。東京から来る友達に、柏の人に分けてあげると頂いた。娘からは貰うのはプライドが許さない？と言われた。生涯現役のミニ農家？を目指す私としては少しでも直売所に出荷したいと思っているのである。確かに微妙な気分ではある。腰痛が治ったらまずは畑と思っている。実り過ぎが心配だが出荷を楽しみにしている。

【楽農】4週続けて草取りを頑張り、畑AB共ほぼまももの状況にした。

<ハウス> ; 大玉やミニトマトの芽カキ、トマト、キュウリ支柱整備。

・支柱整備などで傷み、枯れるなどする。やはり遅れ作業はダメである。

<畑A> ; ナス、トマト、キュウリの草取り、ネギの草取りと土寄せ、空きスペースの耕起、ブドウの袋掛けなど。ナス、トマト、キュウリの支柱整備と収穫

<畑B> ; 薩摩芋、カボチャ、ヤーコン、里芋の草取り（草に覆われところ一大変な作業だった）。黒豆、小豆、大納言の枯れ抜け部分へ追加播種。

* 空きスペースのトラクターと耕運機で除草の耕起、マリーゴールドの草取り、草払い機除草など継続し畑AB共ほぼまももの状況にした。

* グリーンジムの農作業を挟み4週続けて草取りを頑張った。あと1週頑張ればベストになる。

【楽市】イベント交流・直売など

○グリーンジム本戸倶楽部（7月16日）次回は8月20日

・ハウスの草取り、トマト、キュウリの吊り支柱のやり直しなど行った。ご近所さんがキュウリ（多量の）を持って来られて加わるなどで“現代農業”の記事の話で盛り上がり交流懇談が全開した。夜は恒例になって来たお酒を酌み交わしながらその続きになった。

* 17日はいきいき市；ゴウヤの苗の販売（完売）。たい焼き出店の手伝いをした。

* Kさんの那須の畑の見学交流を8月のグリーンジムの前日（19日）に予定。

【つぶやき=Tweet】こんな時間が持てたことは幸い？

○薬で痛みが和らいでも終日家にいる事もあり、新聞（朝日）に目を通し、雑誌、本など読む時間に恵まれた。6日の“天声人語”には80歳で亡くなった小松左京の絶筆で『3. 11の未来』で「私は、まだ人間の知性と日本人の情念を信じたい。この困難をどのように解決していくのか、もう少し生きていて見届けたい」とだが叶わなかった。5日の“経済气象台”の「デミング博士（*品質管理の権威）の4M」のタイトルでJR西日本の宝塚線の刑事責任が問われた事故について書かれたもので面白い文言があった。“ヘンリー・フォードは「両手だけがほしいのに、なぜ頭までついてくるのか」と独特な表現でこれを嘆いた。”最近これに似た意味の話が2つあったので、判る？気がする。6日は

「歴史の必然」のタイトルで最後にこう書かれていた。「折しも日本は復旧から復興への途上にあり、あらゆる側面で見られる『制度疲労』やよどみを一扫し、全力でこの国難に向き合い、挑戦する機運が高まっている（*?）。この動きが、『一人ひとりの内側からの変革を柱とする国づくり』に結びつくことは、歴史の必然であろう。そのことは米国の転機（*米国債のデフォルト問題）やジャスミン（*チュニジアの花の名から）革命も示唆している。」と結んでいる。雑誌では家内が友人からたまたま貰った「婦人公論（8/7号）」で工藤美代子の快樂Ⅱは同世代がテーマで気になる内容であった。6日の朝日で、同世代の女性の性の相談に上野千鶴子（東大教授で性に関する著書が多い）が答えていた。本では曾野綾子の「老いの才覚」で老いの基本は自立と自律という。この認識は正しいと思う。書棚から気になった古い本を取りだして読む。立花隆の「文明の逆説」。社会現象を分析解説？している。これは35年前に書かれたものであるが、現在の社会の病理現象に通底して内容的に古くない。ローマ帝国はなぜ崩壊したかからはじまり興味深いものが多く一挙に読んでしまった。2冊目は、武田泰淳の『愛』のかたち・才子佳人」で、途中だが、発行された20代に読んでいけば？（記憶?）と思った。軽くなり疎遠になったと思われる今の若い世代に薦めたい本である。新聞については現状認識のための示唆に富んだ短文なので機会があれば読んで貰えればと思う。思わぬ事で、こんな時間が持てたことは幸いである。優先してやらねばならない書類整理などあるのだが、、、。ちょっとした充実感がある。（*）は筆者が追記



＜跳ね人の熱気＞お祭り気分を盛り上げる。夕闇に映える朱の衣裳を追った。（23日）

○家電量販店の駐車場で障害児を持つ知人に偶然あった。いきなり“選挙権がないので残念ね”と言われた。現職で7日の柏市議会議員選挙に立候補している人である。「柏の子どもたちを放射能汚染から守る会」がネット上で呼びかけたが原発は余り争点にならなかった様である。投票率も前回より5ポイントも下がって最低の37.62%であった。当選者に知人（複数）の名があり安心？した。原爆が投下された6日の深夜番組で“ヒロシマ”をテーマした白熱教室を見た。66年目の“ヒロシマ”が深く新鮮に問われていた。若い人の発言が頼もしく思えた。何も出来ないでいる日が続いている。暑苦しさも手伝い自分が鬱陶しい。早く良い汗をかきたいものである。

***笠間を空けて10日以上なる。夏野菜が心配であるが、腰の治癒はまだ？気候と同じで先が見えない。一休さんの遺言ではないが“なるようにしかならない”**とは言うが、である。

***今はいませんが、笠間にkogure農場にお越し下さい。【特に編集せずランダムな構成にします】**

発行者；Kogure農場・小暮

住所；笠間市本戸4201-10

携帯電話：090-9333-4135

メール；torao-k@nifty.ne.jp

HP；<http://homepage3.nifty.com/toragigi/>